

**放課後等デイサービス『あそぼ』**

## ～地域とつなぐ～

「こんにちはー」「頑張っているね！」と、ありがたいことに、活動の中で地域の方に声をかけられる事も増えてきました。買い物体験で支払いの際「ゆっくりいいよ」と声をかけていただくことや、電車等の公共交通機関の利用の際話しかけて頂いたこともあります。活動を振り返ると地域の方に支えられ、配慮していただいている事に気付かれます。




今後は、挨拶に留まらず、あそぼのイベントに地域の方を招待し、周りも巻き込んでいきたいと思っています。イベントを通してお互いに、どの様な方が地域で生活しているのかを、知るきっかけになるのではないかと考えています。また、災害等の、もしも何かがあった時は、地域住民の助け合いが必要になります。あそぼの利用者を知っていただくだけでなく、お互いを知り「〇〇君」「〇〇さん」が居るという事を知るのが、いざと言う時に支え合い、助け合えるのではないかと考えます。 放課後等デイサービス あそぼ 広瀬 加奈

**障害福祉サービス事業所『みらいコンパニー』**

## ～「みらいに笑顔をつないで…」～

**桃** 栽培からスタートしたコンパニーの農業。その後、米や小麦、季節野菜を生産し、現在はサツマイモや里芋を企業へ出荷している。そう考えるとスタートから農福連携が行われ、地域住民の方々とのつながりが続いている…。また、近年は薪を通して県内外のお客様との出会いがあり、薪が人と人をつなげている…。

コンパニーは20年の月日が経つが、いつもメンバーさんの笑顔があふれている。コンパニーでは野菜や薪、ジャムなど様々な商品をお客様にお届けしている。その商品はメンバーさんとお客様をつなぐものになり、商品だけでなくメンバーさんの笑顔も一緒に届けをして、お客様も自然と笑顔になる。

最近はコンパニー周辺の畑に花の種を蒔き、春はハゼリソウ、夏はヒマワリが咲いている。その景観を見た近所の方も笑顔に…。

美味しい野菜やジャムを食べると笑顔になり、薪が燃える暖炉で家族も笑顔になる。メンバーさんの仕事が、どこかのだれかの笑顔につながっている。

これからも、メンバーさん個々のしあわせの価値を考え、こころの豊かさを考え、笑顔をつなぐことを続けます…。次の20年後、結果ではなく過程を大切にしながら、いろいろなものをつないでいきます。






社会福祉法人さかき会ブランド『サンセリテ』Sincerite (フランス語「真実」「真心」)

**障害福祉サービス事業『みらいファーム』**

## ～生産・販売を通して人とつながる～

「山梨県の桃で作ったジャムはいかがでしょうか」「山梨県のおいしい水で育ったもち麦はいかがでしょうか」そこから会話が始まり、人との温かい出逢いが始まります。販売を通して繋ぐ役割を広げていくこと、これからも、地域の方々と繋りをもちながら、楽しく活動していきたいと思います。

障害福祉サービス事業「みらいファーム」 小野 志津香

**Column**

法人理事 戸田 正彦先生(NPO法人理事長)のコラムです

### 『日常を離れて旅に出ましょう』

A君の笑顔はいつも控えめだが、「ヴァンフォーレ」の事を話す時は表情がいっぱいになる。「家族で沖縄に琉球戦の応援行ってきたよ、勝って嬉しかった」いつも言葉少ない彼がボソボソと語ってくれる。彼は旅する楽しさを皆に伝え、それが生活の張りと自信にも繋がっているように思えるのです。

みらいも設立20年余り、いろんな旅を経験してきた。近場のレクから始まり他県への団体旅行、家族も含めた親睦・研修旅行、グループ旅行等バスばかりではなく飛行機や電車等を利用したいろんな旅を通して、失敗も多くあったが今は旅する

ことが日常になり、多くの経験を積んできたことが地域生活での自信にも繋がり、旅を楽しむ思いも育んできました。

県内で先駆的に旅に取り組んできた団体や施設の努力は、今は忘れ去られてきていますが、配慮なき社会の中で工夫と知恵を出し合い、行方不明や救急利用・立て籠もり・トイレ詰り、入浴・食事・失禁等の失敗経験を糧に旅を実現してきた関係者のアセの努力があり、普通の旅ができるバリアフリー時代が今あるのだと思うのです。

旅の受け入れ側の理解・旅する側の思いがリンクできた時、旅は日常を離れた楽しい体験に生まれ変わるのでしょう。そして両方に繋いでくれた地元旅行社の土谷さんのことはいつも持参してくれた美味しい「煮たまご」とともに忘れない人物なのです。

「帰れるから旅は楽しい 日常を離れ旅に出かけましょう。」

法人理事 戸田 正彦(NPO法人理事長)

